

# 平成19年度 定期作況報告

(8月20日現在)

北海道立中央農業試験場

# 水稻の部

水田・転作科(岩見沢市)

## I 気象概況

7月下旬:平均気温は平年より1.3℃低く、降水量は平年の61%、日照時間は平年の151%であり、低温、少雨、多照に経過した。

8月上旬:平均気温は平年より0.4℃高く、降水量は平年の121%、日照時間は平年の38%であり、多雨、寡照に経過した。

8月中旬:平均気温は平年より2.2℃高く、降水量は平年の89%、日照時間は平年の129%であり、高温、多照に経過した。

以上、1ヶ月を通じ気温は平年より0.3℃高く、降水量は平年の92%、日照時間は平年の107%であり、ほぼ平年並に経過した。

項目	7月下旬			8月上旬			8月中旬			平均(合計)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	25.4	25.8	△ 0.4	26.2	26.4	△ 0.2	28.3	25.1	3.2	26.6	25.8	0.8
最低気温(℃)	15.9	18.1	△ 2.2	20.0	19.0	1.0	18.7	17.5	1.2	18.1	18.2	△ 0.1
平均気温(℃)	20.6	21.9	△ 1.3	23.1	22.7	0.4	23.5	21.3	2.2	22.3	22.0	0.3
降水量(mm)	31.0	51.0	△ 20.0	72.0	59.3	12.7	27.0	30.4	△ 3.4	130.0	140.7	△ 10.7
日照時間(hr)	82.6	54.7	27.9	19.6	51.3	△ 31.7	66.3	51.5	14.8	168.5	157.5	11.0

注) データは「アメダス岩見沢」を使用。平年値は平成9年～18年10ヶ年平均値を農試が算出し使用。最高、最低、平均気温は期間内の平均値、降水量、日照時間は期間内の積算値を用いた。なお、7月18日の気象データは欠損のため、欠損当日のデータは含めていない。

## II 作況

平成19年8月20日作況

### 5月20日作況 やや不良

事由: 本年は根雪終日が1日早かったが、4月下旬および5月上旬の降雨の影響により耕鋤初日は平年より7日遅れた。播種は平年より2日早い4月17日に行った。播種後の好天により、出芽まで5日で、出芽揃も良かった。5月上旬は気温が高かったものの曇天のため日照時間が少なく、中旬は気温、日照時間ともに少なかった。そのため、苗の生育は遅延した。移植は平年並の5月21日に行った。移植時における苗質は、「きらら397」および「ほしのゆめ」の両品種において草丈が1cm以上短く、茎数、主稈葉数は「きらら397」がほぼ平年並、「ほしのゆめ」が平年をやや下回っていた。また、乾物重も「きらら397」、「ほしのゆめ」の両品種とも平年より14～19%下回っていた。

以上により、現在の作況は、やや不良である。

### 6月20日作況 良

事由: 移植は平年並の5月21日に行った。苗質は平年より若干劣った。しかし移植後おおむね高温、多照に経過し活着は良好で、その後も好天が続き、順調に生育が進んだ。6月20日における草丈は、「きらら397」で平年の119%、「ほしのゆめ」で平年の115%で平年を上回った。また、茎数も「きらら397」で平年の187%、「ほしのゆめ」で平年の179%と両品種とも平年を大幅に上回った。主稈葉数も平年に比べ「きらら397」で1.5葉、「ほしのゆめ」で1.1葉上回り、1週間から10日ほど生育が進んでいる。

以上、生育は大きく進んでいることから、現在の作況は良である。

### 7月20日作況 やや良

事由: 幼穂形成期並びに止葉期は平年に比べ「きらら397」で4日、「ほしのゆめ」で3日それぞれ早かった。7月20日における草丈は、「きらら397」で平年比101%、「ほしのゆめ」で103%となり、ほぼ平年並であった。茎数は、「きらら397」で平年比116%、「ほしのゆめ」は121%と平年を上回った。主稈葉数は「きらら397」で0.9葉、「ほしのゆめ」で0.2葉それぞれ平年より上回った。

7月に入り最低気温が平年より低く推移し、特に7月11日から20日までは著しい低温が続いた。そのため生育が緩慢になるとともに、ちょうどこの期間が冷害危険期と重なった。幼穂形成期以降、深水管理に努めたが、障害型不稔の発生も考えられる。

以上のことを考慮し、現在の作況はやや良である。

### 8月20日作況 やや良

事由: 止葉始は平年より3～4日早かったが、7月下旬の低温により生育は遅延し、出穂期はほぼ平年並となった。8月上旬から天候は回復したが、8月20日における稈長は、「きらら397」で5.4cm、「ほしのゆめ」で5.7cmそれぞれ平年に比べて短く、穂長は「きらら397」で0.7cm、「ほしのゆめ」で1.2cm短かった。しかし、生育前半に天候に恵まれ茎数が確保できたことにより、穂数は「きらら397」で平年比119%、「ほしのゆめ」で122%であった。

以上より、穂長が短いものの穂数が多く、また、生育の早期に茎数が確保され登熟ムラが小さいことが見込まれるため、作況は「やや良」である。

### 9月20日作況

### 10月20日作況

### 平成19年作況最終報告

平成19年8月20日作況

品種名 項目 \ 年次		きらら397 中苗			ほしのゆめ 中苗			ななつぼし 中苗
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年
播種期	(月.日)	4.17	4.19	△ 2	4.17	4.19	△ 2	4.17
移植期	(月.日)	5.21	5.21	0	5.21	5.21	0	5.21
幼穂形成期	(月.日)	7.04	7.08	△ 4	7.02	7.05	△ 3	6.29
止葉始	(月.日)	7.19	7.23	△ 4	7.18	7.21	△ 3	7.16
出穂期	(月.日)	8.03	8.04	△ 1	8.03	8.03	0	8.01
成熟期	(月.日)		9.23			9.20		
穂揃日数	(日)	6.0	6.6	△ 0.6	6.0	7.8	△ 1.8	6.0
出穂日数	(日)	111	107	4	111	107	4	109
生育日数	(日)		156			154		
草丈 (cm)	移植時	9.2	10.5	△ 1.3	10.0	11.0	△ 1.0	9.5
	6月20日	27.7	23.2	4.5	29.2	25.5	3.7	30.3
	7月20日	56.5	55.8	0.7	60.0	58.2	1.8	63.3
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	移植時	1.0	1.1	△ 0.1	1.0	1.2	△ 0.2	1.0
	6月20日	528	282	246	525	293	232	448
	7月20日	950	819	131	988	816	172	853
主稈 葉数 (枚)	移植時	3.2	3.3	△ 0.1	3.0	3.3	△ 0.3	2.9
	6月20日	8.0	6.5	1.5	7.4	6.3	1.1	7.5
	7月20日	11.4	10.5	0.9	10.1	9.9	0.2	10.7
	止葉	11.7	11.1	0.6	10.2	10.2	0.0	10.7
稈長	(cm)	58.2	63.6	△ 5.4	61.1	66.8	△ 5.7	62.5
穂長	(cm)	15.8	16.5	△ 0.7	14.5	15.7	△ 1.2	16.1
穂数	(本/m <sup>2</sup> )	815	684	131	873	717	156	728
一穂粒数	(粒)		50.1			45.9		
m <sup>2</sup> 当粒数	(百粒)		339			329		
稔実歩合	(%)		83.6			87.8		
登熟歩合	(%)		74.5			78.8		
籾摺歩合	(%)		76.1			71.6		
屑米歩合	(%)		8.1			12.9		
千粒重	(g)		23.2			21.9		
わら重	(kg/a)		66.3			67.0		
精籾重	(kg/a)		72.6			72.4		
精玄米重	(kg/a)		55.1			51.6		
収量平年対比	(%)		100			100		-
検査等級			2中	-		2中	-	

注1) 平年値は前7ヶ年中、平成16年(最豊)、15年(最凶)を除く5ヶ年平均

注2) 本年より「ななつぼし」(中苗紙筒)の調査を開始した。

注3) 耕種概要

土 壤 : 細粒グライ土

施 肥 : 高度化成472全層施肥 N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O=8.0-9.7-6.9 kg/10a 堆肥1.5t/10a

播種量 : 中苗紙筒=180cc/箱

栽植密度 : 30×13.3cm 25株/m<sup>2</sup> 4本植え

移植方法 : 手植え

反 復 : 2

# 畑作の部

畑作科(長沼町)

## I 気象概況

7月下旬:平均気温は平年より1.1℃低く、降水量は平年の156%、日照は平年の167%であり、低温、多雨、多照に経過した。

8月上旬:平均気温は平年より0.5℃高く、降水量は平年の86%、日照は平年の47%であり、寡照に経過した。

8月中旬:平均気温は平年より3.2℃高く、降水量は平年の39%、日照は平年の159%であり、著しい高温、寡雨、多照に経過した。

以上、1ヶ月を通じ気温は平年より0.6℃高く、降水量は平年の100%、日照時間は平年の125%であり、やや高温に経過した。

項目	7月下旬			8月上旬			8月中旬			平均(合計)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	24.4	25.3	△ 0.9	26.0	26.0	0.0	28.0	24.8	3.2	26.1	25.4	0.7
最低気温(℃)	15.8	18.1	△ 2.3	19.9	19.0	0.9	18.9	17.7	1.2	18.2	18.3	△ 0.1
平均気温(℃)	20.0	21.1	△ 1.1	22.5	22.0	0.5	23.2	20.8	2.4	21.9	21.3	0.6
降水量(mm)	83.0	53.1	29.9	51.0	59.4	△ 8.4	14.0	35.9	△ 21.9	148.0	148.4	△ 0.4
日照時間(hr)	75.1	44.9	30.2	20.0	42.5	△ 22.5	68.3	42.9	25.4	163.4	130.3	33.1

注) データは「アメダス長沼」を使用。平年値は平成9年～18年10ヶ年平均値を農試が算出し使用。最高、最低、平均気温は期間内の平均値、降水量、日照時間は期間内の積算値を用いた。

## Ⅱ 作 況

平成19年8月20日作況

### 1. 秋まき小麦(平成18年播種)

平成18年

9月20日作況 やや不良

事由：台風13号の影響による降雨のため、播種は平年より7日遅い9月21日である。

以上により、現在の作況はやや不良である。

平成18年

10月20日作況 やや不良

事由：出芽期は8日遅れの9月28日であった。また、出芽後の気温もやや低温で湿潤傾向に経過したため生育の進展は緩慢で、草丈及び茎数は平年を下回っている。

以上により、現在の作況はやや不良である。

平成19年

5月20日作況 やや良

事由：播種期は平年より7日、出芽期は8日それぞれ遅かったものの、秋期が比較的好天に推移したため、越冬前の11月の茎数は平年以上であった。根雪終は平年より4日早く、雪腐病による冬損も平年並で、越冬状況は良好であった。4月中旬は低温に推移し生育が停滞したが、その後の天候回復に伴い5月20日現在で草丈は平年並～やや大きく、茎数は平年より200～300本/m<sup>2</sup>多い。

以上により、現在の作況はやや良である。

6月20日作況 平年並

事由：5月下旬まで生育の進展は緩慢であったが、6月に入り高温、多照傾向となり生育は進み、平年より1～2日遅れで出穂期となった。6月20日時点で草丈はほぼ平年並で、前月まで多目であった茎数は、出穂前後の高温により弱小分けつの無効化が進み、やや少なめとなった。

以上により、現在の作況は平年並である。

7月20日作況 平年並

事由：6月は高温、多照であったが、7月中旬は低温寡雨に推移した。成熟期はやや早生の「ホクシン」で平年より2日早く、中生の「ホロシリコムギ」も平年より1～2日程度早まる見込みである。稈長は平年より短く、穂長はやや長いが穂数はやや少なめである。本年は開花期までは順調であったが、登熟後半の日照不足による子実の充実不足が懸念される。

以上により、現在の作況は平年並である。

8月20日作況 やや良

成熟期は両品種とも平年より2日早まった。子実重は平年と比較して「ホクシン」で10%、「ホロシリコムギ」で6%それぞれ多収となった。子実の充実はやや不良で、リットル重はやや低く、千粒重も平年より低かった。

以上により、現在の作況はやや良である。

平成19年最終作況

事由：

平成19年8月20日作況

1. 秋まき小麦(平成18年播種)

項目	品種名 年次	ホクシン			ホロシリコムギ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(H18.月.日)	9.21	9.14	7	9.21	9.14	7
出芽期	(H18.月.日)	9.28	9.20	8	9.28	9.20	8
出穂期	(H19.月.日)	6.07	6.05	2	6.10	6.09	1
成熟期	(H19.月.日)	7.17	7.19	△ 2	7.23	7.25	△ 2
冬損程度	(0:無~5:甚)	1.6	1.3	0.3	1.3	1.0	0.3
草丈 (cm)	H18.10.20	17.0	24.2	△ 7.2	16.8	25.2	△ 8.4
	H19.5.20	53.4	51.6	1.8	55.4	55.3	0.1
	H19.6.20	97	97	0	107	105	2
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	H18.10.20	473	997	△ 524	543	893	△ 350
	越冬前(11月)	1349	1336	13	1458	1266	192
	H19.5.20	1396	1188	208	1536	1188	348
成熟期における	稈長 (cm)	88	93	△ 5	95	102	△ 7
	穂長 (cm)	9.1	8.8	0.3	9.2	8.6	0.6
	穂数(本/m <sup>2</sup> )	658	671	△ 13	592	603	△ 11
倒伏程度	(0:無~5:甚)	0.0	1.1	△ 1.1	1.0	2.1	△ 1.1
子実重	(kg/10a)	678	617	61	600	567	33
リットル重	(g)	796	805	△ 9	789	796	△ 7
千粒重	(g)	35.6	39.4	△ 3.8	41.6	44.2	△ 2.6
品質	(等級)		2等			2等	
子実重平年対比	(%)	110	100	10	106	100	6

注1) 平年値は前7か年中、最凶(H12年)、最豊(ホクシンH15、ホロシリH16)を除く5か年平均(収穫年度)。

2) △は平年より早、短、少を表す。

3) 倒伏程度:成熟期における倒伏程度。

平成19年8月20日作況

## 2. 春まき小麦

5月20日作況 やや良

事由：融雪剤使用圃場の根雪終は平年より4日早い3月26日であった。播種期は平年より2日遅い4月18日であった。播種後の気温が高めに推移したため、出芽日数はやや短くなり、出芽期は平年より1日遅い5月1日であった。出芽後の5月上旬が高温に経過したため生育は進んでいる。草丈は「ハルユタカ」で平年よりやや短く、「春よ恋」で平年並である。茎数は両品種とも平年を上回っている。

以上により、現在の作況はやや良である。

6月20日作況 平年並

事由：6月上～中旬の気温が高めに推移したため、出穂期は平年より2～3日早まった。草丈は両品種とも平年並である。茎数は「ハルユタカ」でほぼ平年並で、「春よ恋」は平年をやや下回っている。

以上により、現在の作況は平年並である。

7月20日作況 平年並

事由：6月下旬までの高温で出穂後の生育は早まったが、7月上中旬の気温が平年並から低く経過したため、登熟はやや緩慢となっている。稈長、穂長および穂数は両品種とも平年並である。

以上により、現在の作況は平年並である。

8月20日作況 良

事由：成熟期は両品種とも平年並みの8月2日であった。一穂粒数はほぼ平年並みであったが、登熟期後半の7月中下旬が低温に経過したため、千粒重は両品種とも平年よりかなり重かった。このため、子実重は平年比108～114%の多収となった。リットル重は「ハルユタカ」で平年をやや上回り、「春よ恋」は平年並みであった。

以上により、現在の作況は良である

平成19年最終作況

事由：

平成19年8月20日作況

**2. 春まき小麦**

項目	品種名 年次	ハルユタカ			春よ恋		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(月.日)	4.18	4.16	2	4.18	4.16	2
出芽期	(月.日)	5.01	4.30	1	5.01	4.30	1
出穂期	(月.日)	6.18	6.21	△ 3	6.18	6.20	△ 2
成熟期	(月.日)	8.02	8.02	0	8.02	8.02	0
草丈 (cm)	5月20日	20.1	21.0	△ 0.9	21.0	20.7	0.3
	6月20日	77	78	△ 1	80	80	0
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	5月20日	635	530	105	597	550	47
	6月20日	698	720	△ 22	654	702	△ 48
成熟期 に おける	稈長 (cm)	92	89	3	95	96	△ 1
	穂長 (cm)	8.3	8.4	△ 0.1	8.6	8.5	0.1
	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	473	474	△ 1	483	489	△ 6
子実重	(kg/10a)	510	472	38	604	528	76
一穂粒数	(粒)	31.2	30.9	0.3	34.4	33.4	1.0
千粒重	(g)	45.3	39.7	5.6	46.7	41.0	5.7
リットル重	(g)	816	802	14	818	816	2
品質	(等級)	2中			2中		
子実重平年対比 (%)		108	100	8	114	100	14

注1) 平年値は前7カ年中、最豊(平成14年)、最凶(平成12年)を除く5カ年平均。

一穂粒数は、各反復で有効穂を50穂調査。リットル重は1リットル升による測定。

平成19年8月20日作況

### 3. 大豆

6月20日作況 やや良

事由：播種は平年より1日早い5月22日に行った。出芽期は平年と同じ6月2日であった。出芽後は好天に恵まれたため、主茎長および主茎節数は平年を上回った。

以上により、現在の作況はやや良である。

7月20日作況 やや良

事由：6月下旬までの好天により主茎長、主茎節数、分枝数は平年よりやや多く、開花期は平年よりツルムスメで4日、トヨムスメで3日早かった。

以上により、現在の作況はやや良である。

8月20日作況 やや不良

事由：7月中下旬は低温に経過したが、その後の好天により生育は平年を上回り、開花期はユウヅルで平年並みの他は平年より早かった。しかしながら、開花期前後の低温の影響により着莢数はスズマルを除いて平年並みから平年を下回り、特にトヨムスメでは平年の86%となった。

以上により、現在の作況はやや不良である。

9月20日作況

事由：

平成19年最終作況

事由：

平成19年8月20日作況

3. 大豆

項目 \ 年次	品種名	ツルムスメ			ユウヅル			トヨムスメ			スズマル(参考)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.22	5.23	△ 1	5.22	5.23	△ 1	5.22	5.23	△ 1	5.22	5.23	△ 1
出芽期	(月.日)	6.02	6.02	0	6.02	6.02	0	6.02	6.02	0	6.02	6.02	0
開花期	(月.日)	7.17	7.21	△ 4	7.29	7.29	0	7.14	7.17	△ 3	7.22	7.25	△ 3
成熟期	(月.日)		9.29			10.14			9.29			9.30	
主茎長 (cm)	6月20日	13.6	8.5	5.1	12.7	8.8	3.9	15.3	10.3	5.0	9.9	8.0	1.9
	7月20日	51.9	47.1	4.8	46.5	43.3	3.2	56.8	50.7	6.1	45.3	38.5	6.8
	8月20日	59.9	57.4	2.5	88.8	84.1	4.7	62.2	60.1	2.1	69.7	70.6	△ 0.9
	9月20日		57.9			84.4			59.8			71.6	
	成熟期		57.8			84.9			59.7			68.9	
主茎節数 (節)	6月20日	3.9	3.4	0.5	3.4	3.2	0.2	3.3	3.0	0.3	4.0	3.4	0.6
	7月20日	11.5	10.9	0.6	10.9	10.7	0.2	10.1	9.8	0.3	11.6	10.3	1.3
	8月20日	13.6	12.1	1.5	16.3	15.7	0.6	10.2	10.4	△ 0.2	15.5	14.3	1.2
	9月20日		12.2			15.8			10.4			14.3	
	成熟期		12.1			16.0			10.5			14.3	
分枝数 (本/株)	7月20日	7.1	6.1	1.0	4.3	4.1	0.2	5.7	6.2	△ 0.5	9.0	7.4	1.6
	8月20日	6.9	6.2	0.7	5.0	4.7	0.3	6.5	6.3	0.2	12.4	10.9	1.5
	9月20日		5.7			4.3			5.8			10.4	
	成熟期		5.9			3.8			5.8			9.9	
着莢数 (莢/株)	8月20日	53.9	54.1	△ 0.2	39.9	42.6	△ 2.7	59.6	69.6	△ 10.0	164.8	140.1	24.7
	9月20日		51.7			55.6			65.5			120.9	
	成熟期		51.7			55.0			65.2			121.2	
一莢内粒数		1.83			1.74			1.84			2.43		
子実重 (kg/10a)		337			333			392			332		
百粒重 (g)		46.2			44.0			39.2			15.2		
屑粒率 (%)		2.3			2.8			1.8			1.6		
品質 (等級)		3上			3下			3下			2中		
子実重平年対比 (%)			100			100			100			100	

注) 平年値は前7か年中、平成15年(最凶)、16年(最豊)を除く5か年平均。

ただし、スズマルは、前6か年の最凶最豊を除く4か年平均を平年とし参考値を示す。

平成19年8月20日作況

#### 4. 小豆

6月20日作況 良

事由：播種期は平年より3日早かった。その後気温は平年並に経過し、降雨もあったことから出芽は順調で、出芽期は平年より5日早い6月7日であった。また、主莖長は平年より1.8cm長く、主莖節数も平年より1.6節多かった。

以上により、現在の作況は良である。

7月20日作況 良

事由：6月下旬～7月上旬にかけて好天に経過したことから、主莖長、主莖節数および分枝数はほぼいずれも平年を上回り、特に分枝数は平年より4本以上多かった。

以上により、現在の作況は良である。

8月20日作況 良

事由：開花期は平年並の7月25日であった。7月中旬以降低温であったが、8月に入り高温に経過したため、主莖長、主莖節数および着莢数はいずれも平年を上回った。

以上により、現在の作況は良である。

9月20日作況

事由：

平成19年最終作況

事由：

平成19年8月20日作況

4. 小豆

品種名 項目 \ 年次		エリモショウズ		
		本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.23	5.26	△3
出芽期	(月.日)	6.07	6.12	△5
開花期	(月.日)	7.25	7.25	0
成熟期	(月.日)		9.10	
主莖長 (cm)	6月20日	5.8	3.6	2.2
	7月20日	26.3	19.7	6.6
	8月20日	82.7	57.1	25.6
	成熟期		59.0	
主莖節数 (節)	6月20日	2.6	1.3	1.3
	7月20日	9.9	7.8	2.1
	8月20日	13.3	12.9	0.4
	成熟期		12.8	
分枝数 (本/株)	7月20日	7.2	3.5	3.7
	8月20日	7.9	4.4	3.5
	成熟期		3.8	
着莢数 (莢/株)	8月20日	66.9	55.0	11.9
	成熟期		48.1	
一莢内粒数			6.30	
子実重	(kg/10a)		303	
百粒重	(g)		13.2	
屑粒率	(g)		6.6	
品質	(等級)		3中	—
子実重平年対比	(%)		100	

平成19年8月20日作況

## 5. ばれいしょ

5月20日作況 平年並

事由：本年は融雪期が平年より4日早く、4月中旬が低温だったものの植付期は平年より2日早まった。植付後の天候もほぼ良好であるが、5月20日現在で萌芽期に至っていない。

以上により、現在の作況は平年並である。

6月20日作況 平年並

事由：植付期は平年より2日早かったが、5月がやや低温傾向であったため萌芽期は平年より1日遅れた。6月に入り好天に経過し、6月20日時点の茎長及び茎数は平年をやや下回ったが、今後の塊茎肥大に影響は無い程度と見られる。

以上により、現在の作況は平年並である。

7月20日作況 平年並

事由：6月は高温多照に経過し、開花始は平年より早まった。7月中旬は低温寡雨に推移したが、茎長は平年よりやや短く、茎数は平年並みである。また、特に目立った病虫害の発生は認められない。

以上により、現在の作況は平年並である。

8月20日作況 やや良

事由：8月20日現在で枯凋期に達していないが、8月が高温に推移しているため、枯凋は順調に進んでいる。7月が低温傾向に推移したこともあり、塊茎の肥大は順調で、上いも平均一個重は平年より25%大きい94gとなり、1株あたり上いも数は少なく、でん粉価は低めであるが、上いも重は平年を6%上回った。

以上により、現在の作況はやや良である。

平成19年最終作況

事由：

平成19年8月20日作況

5. ばれいしょ

項目 \ 年次	品種名	男爵薯		
		本年	平年	比較
植付期	(月.日)	5.01	5.03	△ 2
萌芽期	(月.日)	5.26	5.25	1
開花始	(月.日)	6.21	6.23	△ 2
枯凋期	(月.日)		8.20	
茎長	6月20日	30	33	△ 3
(cm)	7月20日	39	42	△ 3
茎数	6月20日	3.9	5.2	-1.3
(本/株)	7月20日	5.3	5.1	0.2
8月20日における				
上いも数	(個/株)	11.3	13.5	△ 2.2
上いも平均一個重(g)		94	75	19
上いも重	(kg/10a)	4698	4439	259
でん粉価	(%)	13.9	16.0	△ 2.1
枯凋期における				
上いも数	(個/株)		13.0	
上いも平均一個重(g)			75	
上いも重	(kg/10a)		4457	
中以上いも重(kg/10a)			3448	
でん粉価	(%)		16.0	
上いも重平年対比	(%)		100	
中以上いも重	〃 (%)		100	
でん粉価	〃 (%)		100	

注) 平年値は前7か年中、平成12年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年平均。  
「上いも」は21g以上、「中以上いも」は61g以上のいもである。

6. 中央農試作況報告について

平成13年度より、すべての作物で土壌物理性・排水性が改良された基盤整備後の圃場を使用している。当報告は、中央農業試験場のほ場において行った生育調査について、調査時点における値を中央農業試験場の平年値と比較したものであり、当該管内の作況を代表するものではありません。